やさしく　かしこく　たくましく
山本小学校だより
令和７年１０月２１日
Ｎｏ．１０
文責　宮村　まり

生活の中に動物が入るよさ　そして、それがヤギである意味

【どうしてヤギなの…？】

山本小の周辺は緑豊かな環境で、子どもたちは地域の皆様の協力のもと、農業体験などを行っています。また、自然物や生き物への関心が高い子どもも多く、理科や生活科等の授業だけでなく、校庭で採取したチョウの幼虫やバッタ、ヤゴ、カナヘビ等の生き物によくかかわって、自主的に飼育や観察を行ったり、タブレットや本でエサや生態を調べたりする探究したりしていて、いいなあと感じました。自然のものは、多くの学びを得られる「材」です。

その中で、子どもたちが生き物に関わる様子を見ていると、親しみはもっていますが、「命の重さ」については、さらに体験する必要があると感じていました。虫が死ぬと悲しむけれど、またすぐに次の虫を探しに行く。ケースに入れて走るなど人間側の「意のまま」に扱ってしまう姿も見られました。また、生き物の世話に少し飽きたら「逃がそう」と世話をすることをやめることもありました。

このような様子から、山本小の子どもたちには、まず「かわいい」と親しみを持てる動物であること。そして自分の力では意のままになりにくく、対等またはそれ以上に畏敬の念をもって心通わせながらかかわることができる生き物。そして命から命を生み出すことを感じられる哺乳類である生き物に接してほしい。その「材」が「ヤギ」ではないかと考えました。しかも小さな子ヤギと、そのお母さんヤギを迎えたいと思いました。

【こんな学びや成長を期待できるのでは！】

山本っ子にとって「ヤギの親子を育てる」「ヤギの親子とともに生活する」という経験をすることで、次のような学びが得られると期待しています。

（１）興味を持ったことに自らかかわることで、充実感や達成感を味わい、自信につながる。
（２）一緒に生活し触れ合うことで生まれた疑問や課題を解決するために、探究的な活動を行い、学ぶ楽しさを味う。
（３）動物の生に向き合うことで、自分を含めた命の重さや大切さを感じる。
（４）科学的な見方・捉え方をする力、多様なものを受け入れる力が向上する。
（５）ヤギに対して相手意識をもって接する経験から、共感力や思いやりの心が育つ。
（６）友達と協力して活動することで、コミュニケーション能力を高めると共に、人と同じ目的に向かって協同する楽しさや喜び、力強さを感じる。
（７）ヤギ農家さんやその他ヤギ飼育を通して、関わってくださった人との出会いから、キャリア教育の視点から社会に対する関心が高まる。
（８）子どもたちの活動を通じて、地域や保護者との連携が高まる。

もうすでに、たくさんの「ヤギさん効果」が現れています！ヤギ３頭のお世話をするのは、時間もお金も労力もかかりますが、きっとその苦労以上の何かを得られるだろうと期待しています。

次号では、ヤギ応援隊募集について、お知らせします。